

“Heart to Heart”

第14巻 第3号 (No.43)

発行日 2020年3月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

やる気や元気を引き出す療育

目次:

やる気や元気を引き出す療育	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：自閉症研究の現場から	4
教育センターからのご案内	4

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

という意欲が湧いてきます。認められ褒められることで、誰でも元気ややる気がでてくるものです。それが子どもの中に蓄積されて更なる成長を支える糧になっていきます。

教育センターに通っている子どもたちは十人十色の状態にあり、「個に応じた支援」は尽きることのない課題です。これを推進するためには、個々の重点目標を具体的に立案し、それに沿った指導方法のさらなる進展と教材の充実が必要です。個に即した教材づくりは、子どもたちの状態をよく観察し、学習スタイルを知ることから始まります。ものの見方や考え方が異なっていたり見え方や聞こえ方が違っていたりします。

そのためにセンターでは、安心できる場所とスタッフをそろえ、いろいろな種類のプログラムを用意しています。これらはいずれも子どもの心を動かしていくための媒体です。子どもたちが、何かを作ったり身体を動かしたりする活動そのものを楽しんでいる。また、友だちや先生とのやりとりが楽しい、自転車に乗れるようになって嬉しいと感じる。このように、様々な活動を通して子どもたちがハッと胸に響く経験をするのを期待しているわけです。子どもの心が揺り動かされるように、効率よく学べるような工夫のほかに、子どもたちが楽しめるような味付けを加えてきました。指導を工夫し、やる気や元気を引き出しつつ、それを土台として自己効力感や自己有用感を育てられるように取り組んでいます。

来年度も皆様と協働しながら子どもたちのやる気や元気を引き出し、社会自立に向けた療育を行ってまいります。本年度の指導へのご協力ありがとうございました。

学校教育では、教育目標に「やる気」「元気」という言葉がよく使われます。しかし、やる気や元気をいかにして子どもたちに出させるかについての具体的な方法はあまり示されていません。やる気や元気を出させるためには、その土台となる「安心できる人や場所」「楽しい」「感動する」「褒められ認められる」などの体験が欠かせません。

子どもを取り巻く親や支援者が自分たちの問題で手いっぱい殺伐としていたり、所属する場所が落ち着かずざわついたりしては、子どもたちの心を不安が占めてしまい、元気ややる気を出したくても容易には湧いてこないでしょう。守られた安心できる環境があって初めて、活力や意欲が湧いてくるのです。幼少期は、大人がこの環境をしっかりと整える必要があります。

子どもたちは楽しいことが大好きです。人は楽しい時に様々な意欲が湧いてきます。子どもはいつも楽しいを求めますが、ただ、ダラダラとゲームなどをしていけば満足するわけではありません。そのなかに「できないことができるようになった」「わからなかったことがわかるようになった」という感動体験が欠かせません。一つできなかったことができるようになったり、わかるようになったりすることで、楽しくてしかたがない、もっとやってみようと思えるのです。センターの指導には「わかった」「できた」が、そこかしこに散りばめられていますし、その瞬間を逃がさず「〇〇ができるようになったね」と言語化して伝える。同時に、この感動体験を誰かと共有できるように促すことで、子どもたちにはこの上ない楽しみが生まれ、本人も周りの子どもたちも「自分も頑張るぞ」と





療育プログラムの様子 【各教室・言語プログラム】

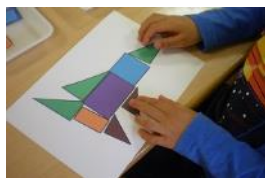
リトムーブ教室 テニスボールやシェーカーを使用したリズム活動を行いました。「取って」「渡す」と声に出す、友だちと協力する、テンポに合わせてシェーカーを回すことを目的に練習しました。最初は、左手と右手の動きが違うことに戸惑っていた子ども達でしたが、動きを覚え、テンポに合わせてられるようになりました。また、相手のことを考え、友だちにやさしく取りやすいように渡すよい練習になりました。(高橋)



いろいろな形のシェーカーを使って

幼児絵画造形教室

○や△、□の形を使って、構成あそびを楽しみました。△と□の家から始まり、その後はそれぞれがいろいろな形を組み合わせていきます。「見て！しりとり列車」「ゆきだるま！」「これはサメ！」など素敵な作品が登場しました。形を組み合わせるのが難しい友だちには優しく教えてくれる子もいて、1年間でみんなが仲良しになったとつくづく感じました。(本田)



みてみて！すごいでしょ！

音楽教室

友だちや担当者とタンブリンやコンガなどの打楽器を使って、『風になりたい』の合奏を楽しみました。ギター練習においては、初心者泣かせと言われていたFのコードを押さえられるようになり、念願だったお気に入りのアニメソングが弾けるようになった子どもも出てきました。音楽鑑賞や楽器演奏などが生活の中の楽しみになってきているとの報告も寄せられています。

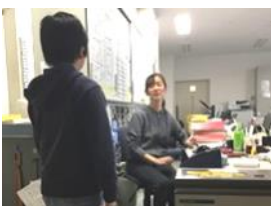


「365日の紙飛行機」を練習中

(平瀬戸)

SST教室

小学校3、4年生のグループは、目上の人とのコミュニケーションや物を借りる際の方法やマナーの練習として「職員室へのおつかい」に取り組んでいます。教室で、入室から退出までの一連の流れや物を借りる際の文言等を確認してから本番に臨んでいます。子どもたちは「緊張したけど、上手にできた！」と回を重ねるごとに自信を深めている様子です。(宮川)



職員室へのおつかい

ダンス教室

年間の集大成となる発表会を行いました。センターオリジナル曲「あいさつのうた」では、パートごとに自信に満ちた発表ができました。二曲目は「ダンス始めました」という軽快なダンスナンバーで、「あなたも一緒にどう？」という歌詞とともに可愛い笑顔で会場を魅了しました。お気に入りのTシャツで、はつらつと踊る姿は間違いなく小さなダンサーでした！たくさんの温かい拍手をありがとうございました。(新堂)



みんなで決めポーズ！

言語プログラム

質問に答える練習の一つとして「色あてクイズ」をしています。初めは複数の絵カードの中から「バナナは何色ですか？」と質問されて、絵を見ながら「黄色」と答えます。慣れてくると、絵カードを見ないで質問に答えたり、問題を出したりすることができるようになってきます。生活の中でも質問に答えられるように練習を重ねています。(吉田)



「何色ですか？」

体育教室

子どもたちに大人気のボルダリングですが、降りる時に手足をどのように動かせばよいかわからなくなってしまふ子どももいます。気をつけているポイントを2つ紹介します。①肘を伸ばすことです。壁から体を離すことで、視野が広がり、足を乗せやすいホールドを選ぶことができます。②梯子の昇り降りのように手足を交互に使い、身体が伸び切らないようにすることです。(鈴木)



登るぞ～！

コンピュータ教室

これまでに学んできたWordやPowerPointのさまざまな機能を使って『新聞作り』を行いました。電車や旅行についてなど、自分の好きなことを紹介するという内容で記事を作成しています。中には、家庭で原稿の下書きを準備してくる子もいて、みんなとても意欲的に取り組んでいます。完成したらコンピュータ教室内に掲示する予定ですので、ぜひご覧ください。(大澤)

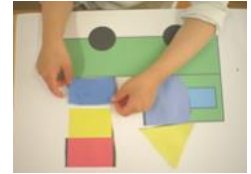


楽しい新聞作り



【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 寒暖差の大きいこの冬でしたが、幼児グループの子ども達は元気一杯にそれぞれの課題に取り組みました。親子教室のお友だちは雪のように真っ白な紙粘土でゆきだるまを作り、年少さんは○、△、□の形を使っての構成あそびを、年中さんは少し難しい形をはさみで切って、年長さんは折り紙でぺんぎんを作りました。真剣に取り組む姿にそれぞれの成長を感じています。(本田)



かっこいいトラックのできあがり！

1年生 算数で「お金」の学習をしています。家から持参した自分の財布の中に模擬硬貨を使って指定された金額を取り出したり、プリント学習でいろいろな硬貨の組み合わせの金額を答える学習を進めたりしています。今後は国語のカテゴリー分けの学習とタイアップして、買い物練習をしていく予定です。子どもたちは今から楽しみにしています。(宮下)

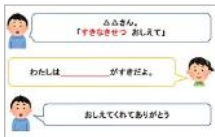


模擬硬貨を使って

2年生 音楽で「こぐまの2月」という曲を鍵盤ハーモニカで演奏しています。「ド」は緑、「レ」はオレンジなど音名ごとに色を決めて、鍵盤に貼ってあるシールの色と階名譜の色を見比べて、階名譜と同じ色の鍵盤を押すことで、演奏できるように工夫しています。鍵盤ハーモニカは息を吹き込みながら指先で鍵盤を操作する難しい動作が求められますが、それぞれのペースで練習しながら、音を奏でる楽しさを実感することを目標にしています。(諸橋)



みんなの前で演奏



友だちに質問してみよう

3年生 友だちと二人組を作って、会話を続ける練習を行っています。提示された会話の例を参考に、質問役と回答役に分かれて、言葉のキャッチボールを経験することが目的です。慣れてきた子どもたちは、提示されている例以外の質問を自分で考えて、会話を楽しむ様子も見られ、とても良い雰囲気の中で練習をすることができています。(猪野)



サイコロを作ろう！

4年生 算数の「立方体と直方体」の単元の中で、見取り図や展開図の学習をしています。三次元的な学びとして、立方体であるサイコロの展開図を組み立てました。子どもたちはみな、どこの辺を貼り合わせるのか、そして対面のドットの和が7になるように、よく見て考えて作業していました。(久留)



ボールをよく見て！

5年生 体育でテニスボールを使った運動を行っています。オーバーハンドスローの投げ方や担当者がパスしたボールをキャッチすることができるようになりました。後期になってから毎回行っている成果が表れ、5mほど離れた場所からパスしたボールを上手にキャッチして、前方に5mから10m程度投げることができるようになってきています。(藤本)

6年生 国語の『色々な言葉を知ろう』という単元で、熟語や「どうとう」「ついに」といった副詞の意味や使い方について学習しています。また、似た意味の言葉の組み合わせを覚える学習も行っています。「気持ち」と「感情」など、組み合わせを覚えることで語彙を広げ、会話や作文に活用できることを期待しています。(宮川)



色々な言葉を使って文作り

中学生 数学で「資料の活用」という単元に取り組んでいます。棒グラフや柱状グラフ、人口ピラミッド、表などの作成や読み取りをしています。人口ピラミッドでは、数値の読み取りだけでなく、男女差の比較等の発展問題にも挑戦しています。1950年代の人口ピラミッドと現在のものを見比べて、人口の移り変わりについても学習しました。(宮川)



人口ピラミッドを読み取ろう！

ラーニングプログラム 担当者と1対1、または1対2で1時間の学習を進めています。2人1組は、同じ学年同士もあれば違う学年の組み合わせもありますが、それぞれが個に合わせた学習課題に取り組んでいます。その中でお互いの学習内容に興味を持つことがあります。「〇〇君も来年こんな難しいのを学ぶよ」「△△くんは去年勉強したね」など、異なる学年だからこそ伝えられることがあります。上の学年の子は先輩として、下の子は先輩を見習って、互いに切磋琢磨しながら学習をしています。(諸橋)



お互いを意識して

コラム 自閉症研究の現場から (2)

自閉症と脳の多様性

最近、自閉症の診断の歴史について研究している方とお話をする機会がありました。歴史的に見ると、世界保健機構や米国精神医学会により標準化された「国際的」な自閉症の診断基準は、1960年代、70年代の英国で生まれたそうです。自閉症児を定義し、人数を数えることにより、特別支援教育の対象として公的支援を受けられるようにするという、社会運動・子どもの権利の一環としての側面があります。それまでは「知的障害」として施設に隔離されていた子ども達を学校教育へと統合し、適切な支援を受けられるように制度を整えるという役割を果たした「自閉症の医学的診断」という発明は、現在につながるインクルージョン運動の先駆けとして捉えることができるかもしれません。

もちろん、時代の変化とともに、自閉症の捉え方や診断に対する考え方にも、大きな変化が起こりつつあります。例えば、近年、自閉を「障がい」としてではなく、「脳の多様性」(ニューロダイバーシティ)

として捉えよう、という社会運動が、主に北米や欧州を中心に広がってきています。当事者が、障害を持つ「支援の対象」ではなく、自閉という脳の特徴を持つ個人として、主体的に社会や教育、政策決定にかかわるべきであるという考え方は、好ましいものであるように思われます。また、自閉症を生物学的な疾患として「治療」するのではなく、自閉という「多様性」を持つ個人が十分に社会参加できるように、現在の「非自閉者」に最適化された環境や制度を整えるべきであるという主張は、現在のインクルージョン運動の一環として、共感が持てるものでもあります。

ただ、自閉を「障がいではなく多様性である」と主張することにより、現在の公的な社会的・医学的・教育的支援の根拠が失われてしまうのではないかと、政府が行おうとしている公的支援への支出削減に繋がってしまわないかという不安が、英国などでは議論されているようです。また、自閉はとても幅の広いスペクトラムなのでニューロダイバー

シティ運動の中核となっている、主に青年期や成人期に診断を受けた方々と、言葉や認知の発達、自立にも同時に困難さを抱えるような自閉者との間にある多様性に対して、どのようにアプローチすべきなのか、活発な議論が行われています。自閉は障害なのか個性なのか。診断や介入・支援は何を目的とするべきなのか。医療や教育、社会福祉などの公的な支援は、どのように行われるべきなのか。主に欧米で始まっている、自閉に対する考え方の大きな変化は、今後日本にも影響を及ぼすかもしれません。いろいろと考えさせられる問題です。



〈参考文献〉 英語ですがオンラインで無料で読めます。自閉症という概念の歴史について、とても興味深い論考がなされています。

Bonnie Evans (2018). The Autism Paradox. Aeon Essay <<https://aeon.co/essays/the-intriguing-history-of-the-autism-diagnosis>>

このコラムは4回シリーズでお届けしています。

2020年度セミナーのご案内

2020年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- 第1回 2020年 6月18日(木) 10時～12時
- 第2回 2020年 11月26日(木) 10時～12時
- 第3回 2021年 2月19日(金) 10時～12時



2020年2月 藤野博先生
「脳の発達の多様性とコミュニケーション支援」

学校法人 武蔵野学園
武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください



2020年度療育プログラムについて

2020年度の療育プログラムに多くの方に応募いただきありがとうございました。プログラムによってはまだ若干空きがあるものもございます。空きがないプログラムについてはキャンセル待ち登録もできますので、ご遠慮なくお問い合わせください。